



測量を通して得た 出会い・つながり

松館 知子 さん (写真右)

山本 千瑛 さん (写真左)
(三沢市)

Profile

三沢市役所建設部職員として勤務。10月に開催された県測量競技大会「横断測量部門」で、大会史上初の女性による部門制覇を成し遂げた。

「建物を建てる」「街をつくる」という仕事

お二人の勤務する職場は、三沢市役所建設部。それぞれ、松館さんは「建築住宅課」、山本さんは「都市整備課」で働いています。40名近く在籍する建設に携わる部署のなかで、現在女性が現場に出るのはお二人だけです。

「たとえばこの作業着は、男性サイズしかないんです」と話す山本さん。長靴にヘルメットで、現場へ向かいます。実際に現場に出る際に「女性だから」ということとする苦労はないと言います。「官公庁と企業とでは待遇が違ってもいいかもしれませんが、土を直接触るようなことはほとんどなく、土木と言っても発注する側なので、現場を見守ることが自分たちの仕事です」。むしろ、業者さんと円滑にコミュニケーションをとることができるのは、女性が得意とする分野かもしれません。

お二人が建設業に携わるきっかけになったのは、それぞれビルや橋に憧れがあったから。建物を建設することは、自分たちのつくったものがたくさんの方に使用され、ずっと後まで残るということ。松館さんは、公園の整備のために市で一番大きい遊具を設置した業務が印象に残っているそうです。「遊具で楽しそうに遊んでいる子どもたちをみると、この遊具にしてよかった、いい仕事したな、と思えます」。かたちが残る仕事だからこそ、やりがいも大きいそうです。

測量大会に向けての活動は 幅広い年齢層の方々と交流する機会

三沢市役所には青森県建設技術協会三沢支部があり、建設部に配属された際に入部するそうです。現在、部員は50名以上で、若い職員からご年配まで幅広い年齢層で構成されています。この50名以上の所属人数というのは、県内でも特別多い所属人数だそう。親睦会もあり、和気あいあいと活動しています。青森県建設技術協会主催の測量競技会は、市町村単位で3つの部門について競い合い

ます。お二人が出場した「横断測量部門」は、2人ペアになって行う競技。これまで、男女のペアでの参加はあったものの、女性ペアの参加者はありませんでした。

「先輩に勧められたことがきっかけで、今回出場しました。以前にも応援に駆け付けたことはありましたが、測量大会に出ること自体が、幅広い年齢層の方々と交流する機会となっていて、各市町村内での結束も高まります」と山本さんは語ります。お二人は大会まで、勤務終了後に測量の練習を重ねて挑みました。今年の測量大会は、例年よりも女性の参加者が多かったようです。今までメディアに取り上げられることのなかった大会が、お二人の部門制覇によって新聞などで大きく取り上げられました。

一つの事業にたくさんの人が 携わる仕事だからこそ、人が大切

これからも継続して測量競技大会に出場し、上位入賞を狙いたいと話すお二人。目指すは大会二連覇です。大会に出場することだけが大切なのではなく、チーム内の結束やそこで出会う人とのつながりがあってこそ意義のあるものなのです。

また、これからのビジョンについて、「まだやったことのない建物関係について勉強してみたい」と山本さん。松館さんは「設計から携わり、建物を建ててみたい」と話します。一つの事業にたくさんの人が携わる仕事だからこそ、人とのつながりを大切にしているお二人の姿からは、自分の道を自分で切り開いていける芯の強さを感じました。